

令和元年度 (一社) 島根県建築士事務所協会主催 第9回「学生設計コンクール」 最優秀賞・協会長賞を受賞しました!



令和2年2月17日(月)に本校で、(一社)島根県建築士事務所協会主催 第9回「学生設計コンクール」の受賞式が行われました。「私の住みたい家」のテーマで県内工業高校より応募された80名の中から、建築・電気科3年久保玲奈さん(旭中出身)が**最優秀賞を受賞**しました。また、建築・電気科3年中島侑海さん(浜田東中出身)が**協会長賞を受賞**しました。おめでとうございます。

私の住みたい家 ～市松ハウス～

「日本の和を取り入れた家」を造りたいと思い、2020年の東京オリンピックのエンブレムにも用いられた、日本の代表的な模様である市松模様をモチーフにした家を考えてみました。また、最近の家は親と子の会話がなく、それぞれ別の部屋で過ごしているという傾向があると思います。私は、これをなくし「家族との時間・個人の時間を大切にできる家」、そんな家があったらいいなと思いました。そこで、市松模様を基かして土間は平土間を使用しそれぞれの部屋に分かれるようにし、何があってもすぐに集まれる。天気のいい日には開いた扉を立てるようにしました。また、個人用のデスクを子供部屋や勉強室それぞれにひとつずつ設け、それぞれの趣味や時間を独断的でも楽しめることができます。1階は3区になっており、西側を主に家族の空間、東側を客間として、プライベートの時間や、お客さんとの時間を大切にできるように配置しました。

この家に住む人によって居心地のよい場所であること、家族が思い、集ってくるところであることを大切に設計しました。

面積表	
敷地面積	348.62㎡
1階床面積	101.08㎡
2階床面積	57.76㎡
延べ床面積	158.84㎡

島根県立江津工業高等学校 建築・電気科 3年 久保 玲奈

TEN HOUSE

「つながりながら過ごす家」

島根県立江津工業高等学校 中島 侑海

最優秀賞講評

総合的に建築的センスを感じる作品である。何よりコンセプトが一貫している点が良い。アプローチの舗装パターン、間取りの形式、立体構成まで、市松模様をモチーフにしてよく統合されている。図面表現としても屋内屋外を目地線の多寡で表すなど、建築コンセプトをしっかりと伝えることができている。模型写真も印象的で素晴らしい。陰影を強調したライティングでうまく市松の形を強調している。建築に展開しやすい市松模様をチョイスしたこと自体が一番の成功だったかもしれない。それゆえに参照すべき先例も豊富である。日本家屋の伝統的な間取りの発展形と見るか、専用テラスを持つ居室群として見るかでデザイン展開は変わってくるかもしれない。本作品はどちらかと言えば後者か。今後それら先例に学びながら設計に取り組むことで、さらに空間の魅力に深みを加えることができるだろう。

協会長賞講評

周辺環境をうまく利用した配置となっている。シンプルなスタイルで無機質な感じの建物ではあるが、周辺環境に馴染もうと平面的にも立体的にも手をのばしているようなデザインになっていると思える。そこに住む人の生活スタイルが更に環境と建築物を一体化させるように考えられていて、さらに進化する可能性が分かる。そのことを考えるとシンプルモダンなスタイルで設計されたことは正解だと思う。内部としてはもう一工夫あってもよいと思えるが、ファミリースペースに大きな階段配置されていることは面白い。この階段を利用しギャラリーとして、談話スペースとして、映画館のようなシアタースペースとしてなど多目的利用ができる。いろいろな面で進化しそこに「つながり」も生まれる。そんな住まいとなっていることはとても評価できる。